

平成 30 年度
下水道に関する人身事故発生状況について
(平成 31 年 2 月末現在)

1. 総括
2. 維持管理作業
3. 工事

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故発生状況(総括)

(平成31年2月末現在)

平成30年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (4)	0 (4)
	2. 負傷事故	3 (3)	3 (2)	2 (2)	4 (4)	4 (3)	4 (4)	3 (1)	4 (3)	3 (7)	2 (5)	3 (4)	0 (2)	35 (38)	35 (40)
	合計	3 (3)	3 (2)	2 (2)	4 (5)	4 (3)	4 (4)	3 (2)	4 (4)	3 (8)	2 (5)	3 (4)	0 (2)	35 (42)	35 (44)
	累計	3 (3)	6 (5)	8 (7)	12 (12)	16 (15)	20 (19)	23 (21)	27 (25)	30 (33)	32 (38)	35 (42)	35 (44)	-	-
工事	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	2 (2)	0 (1)	2 (10)	2 (11)
	2. 負傷事故	3 (4)	4 (5)	5 (5)	14 (5)	4 (7)	5 (13)	6 (6)	10 (16)	9 (13)	9 (13)	9 (15)	0 (11)	78 (102)	78 (113)
	合計	3 (4)	4 (5)	5 (6)	14 (7)	4 (7)	5 (15)	6 (7)	10 (17)	9 (13)	9 (14)	11 (17)	0 (12)	80 (112)	80 (124)
	累計	3 (4)	7 (9)	12 (15)	26 (22)	30 (29)	35 (44)	41 (51)	51 (68)	60 (81)	69 (95)	80 (112)	80 (124)	-	-
合計	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	2 (2)	0 (1)	2 (14)	2 (15)
	2. 負傷事故	6 (7)	7 (7)	7 (7)	18 (9)	8 (10)	9 (17)	9 (7)	14 (19)	12 (20)	11 (18)	12 (19)	0 (13)	113 (140)	113 (153)
	合計	6 (7)	7 (7)	7 (8)	18 (12)	8 (10)	9 (19)	9 (9)	14 (21)	12 (21)	11 (19)	14 (21)	0 (14)	115 (154)	115 (168)
	累計	6 (7)	13 (14)	20 (22)	38 (34)	46 (44)	55 (63)	64 (72)	78 (93)	90 (114)	101 (133)	115 (154)	115 (168)	-	-

※下段()書きは前年度(平成29年度)の値
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.人身事故発生状況(維持管理作業)

(平成31年2月末現在)

平成30年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成29年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	3	1	1	1	0	2	0	2	1	1	1	0	13	15
	2. 政令市	0	2	1	2	0	0	1	1	0	1	1	0	9	13
	3. 一般市	0	0	0	1	3	2	2	1	2	0	0	0	11	15
	4. 町村	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	0	35	44
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	2. マンホール	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4	4
	3. 処理場	2	1	1	3	3	2	2	3	3	0	1	0	21	31
	4. ポンプ場	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	5	1
	5. その他	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4	8
	合計	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	0	35	44
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	負傷事故	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	0	35	40
	1. 墜落・転落	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	2	0	6	6
	2. はさまれ・巻き込まれ	2	0	1	0	2	3	2	2	0	0	0	0	12	8
	3. 飛来・落下	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3	2
	4. 切れ・こすれ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3	9
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	2	1	0	0	0	2	0	1	0	6	7
合計	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	0	35	44	
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2
	2. 委託先業者	3	0	1	3	4	4	3	4	3	1	3	0	29	39
	3. 第三者	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
	合計(人)	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	0	35	46
	累計	3	6	8	12	16	20	23	27	30	32	35	35	-	-

平成29年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	2. 委託先業者	2	2	1	5	4	3	2	4	7	5	2	2	39
	3. 第三者	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	5
	合計(人)	3	2	2	5	4	5	2	4	8	5	4	2	46
	累計	3	5	7	12	16	21	23	27	35	40	44	46	-

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

人身事故情報データベース(維持管理作業)

平成30年度

平成31年2月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	
2月							
1	H31.2.4	4. 町村	処理場	①負傷事故	14.その他	<p>除雪作業中に除雪機のシューターから、雪が飛ばない状況が発生したため、オーガー部の動作を手元で停止して、シューターに詰まった雪を取り除こうと右手を入れたところ、除雪機の刃(オーガー)が停止しておらず、指を挟まれ右手の人差指及び中指の先端を1cm程度切断</p> <p>・除雪作業中において、機械の不具合故障が発生した場合、完全に機械が停止したのを確認した上で点検を行うなど、安全対策を十分に心がける。 ・安全対策に向けた、ミーティング等を職員全員に徹底する。</p>	委託先業者
2	H31.2.11	1. 都道府県	その他	①負傷事故	1.墜落・転落	<p>汚泥焼却灰の収集運搬作業として、灰ホップよりトラックの灰タンクへ積み込み作業を行っていた。灰の積み込みが終わり、灰タンクの蓋を閉める際に手を滑らせ、灰タンク上部より墜落し骨折。</p> <p>・全センターの全ホッパー室に安全ブロックと親綱を設置。 ・タンク上への昇降時及びタンク上での作業時は安全ブロックと安全帯の併用の徹底。 ・全粉粒体運搬車両のステップ、ハッチのハンドル等に滑り止め対策を実施。</p>	委託先業者
3	H31.2.15	2. 政令市	マンホール	①負傷事故	1.墜落・転落	<p>汚水人孔調査として、人孔内(中間スラブ上)の写真を撮影中、誤って中間スラブの開口部から4m程度下にある中間スラブに転落した。転落した際、腰と左手を強打し腰椎骨折。</p> <p>・人孔内(中間スラブ等)における高低差2m以上の作業においては、開口部への転落防止における安全対策(安全柵の設置等開口部の養生や安全帯の使用による転落防止)を徹底する。</p>	委託先業者

3.事故発生状況(工事) (平成31年2月末現在)

平成30年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成29年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	4	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	10	10
	2. 政令市	1	4	3	4	4	4	2	2	4	2	10	0	40	22
	3. 一般市	1	3	5	11	3	6	7	11	5	7	4	0	63	88
	4. 町村	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3	0	6	13
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	合計	6	8	10	18	8	10	9	14	9	10	17	0	119	140
工事分類	1. 管きょ開削	3	6	7	9	4	9	8	10	4	6	9	0	75	86
	2. 管きょ推進	1	1	2	2	0	0	0	2	1	1	2	0	12	18
	3. 管きょシールド	2	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	7	3
	4. 管きょその他	1	0	0	3	3	1	0	0	0	0	1	0	9	8
	5. 処ポ土木建築	0	1	0	0	1	0	0	2	2	0	1	0	7	13
	6. 処ポ機械電気	0	0	0	3	0	0	1	0	1	1	3	0	9	8
	7. 処ポその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
	合計	7	8	10	18	8	10	9	14	9	10	17	0	120	140
事故類型	1. 墜落・転落	0	3	3	2	0	1	2	2	3	2	6	0	24	30
	2. はさまれ・巻き込まれ	1	0	0	3	1	1	2	0	1	3	0	0	12	29
	3. 飛来・落下	1	0	0	2	0	0	0	2	2	0	2	0	9	10
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	5	4
	5. 転倒	1	1	2	0	1	0	1	2	0	1	2	0	11	5
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	10
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	5	13
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	4
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害(人身)	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	4	14
	12-2. 公衆災害(物損)	4	4	5	4	4	5	3	3	0	1	6	0	39	17
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14. その他	0	0	0	3	0	0	0	0	2	2	0	0	7	4	
合計	7	8	10	18	8	10	9	14	9	10	17	0	120	140	
被災者数(人)	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	11
	2. 重傷	2	4	5	9	3	5	5	8	10	7	8	0	66	81
	3. 軽傷	1	1	1	10	1	0	1	2	0	2	1	0	20	38
	合計(人)	3	5	6	19	4	5	6	10	10	9	11	0	88	130
累計	3	8	14	33	37	42	48	58	68	77	88	88	-	-	
その他(民間発注工事など)															
1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0

平成29年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
被災者数(人)	1. 死亡	0	0	1	2	0	2	1	1	0	1	2	1	11	
	2. 重傷	1	4	4	2	5	8	4	13	8	9	13	10	81	
	3. 軽傷	3	1	1	3	3	4	2	3	6	4	7	1	38	
	合計(人)	4	5	6	7	8	14	7	17	14	14	22	12	130	
累計	4	9	15	22	30	44	51	68	82	96	118	130	-		
その他(民間発注工事など)															
1. 死亡	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

事故情報データベース(工事)

平成30年度

平成31年2月末現在

NO.	発生日月	工事情報			事故情報			被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
2月										
1	H31.2.1	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	下水本管を入替するために掘削作業をしていた際に、ガス引込管を損傷した。	12-2.公衆災害(物損)			
2	H31.2.1	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	下水本管を入替するために掘削作業をしていた際に、ガス引込管を損傷した。	12-2.公衆災害(物損)			
3	H31.2.2	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	ガス管理者の立会いの下、ガス管を40cm露出させ、残り50cmのところ、立会者と確認の上、管上の土をバックホウで漕き取ったところ、ガス供給管サドルをバケツで引っかけ、破損させた。	12-2.公衆災害(物損)			
4	H31.2.4	3.一般市	6.処ボ機械電気	電源ケーブル撤去作業	現場内	道路上でマンホールポンプの電源ケーブルを撤去していたところ、誤ってマンホール蓋開口部からマンホール内へ転落(高さ4.5m)した。	1.墜落・転落	75	男	死亡
5	H31.2.4	2.政令市	1.管きょ開削	鉄筋工	現場内	下水道管きょ内(馬蹄管内径2700mm×2700mm)で、鉄筋を組み立てる作業中に、高さ約80cmの脚立から落下し、左足首を捻った。	1.墜落・転落	37	男	左足関節骨折
6	H31.2.4	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	管布設工において既設人孔への接続を行うにあたり、先行掘削を行った。1mまで掘削しても埋設指示シートが確認できなかったため、矢板の建込を行い土留めを行ったところ、矢板がガス管に接触し、ガス管を破損した。	12-2.公衆災害(物損)			
7	H31.2.6	4.町村	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	矢板を設置する箇所の浮石を取り除こうと作業員が、掘削面に入った所、掘削面の地山崩壊により、作業員の腰から下が埋まった。	7.土砂崩壊	44	男	骨盤2箇所骨折
8	H31.2.11	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	アスファルト40型の路盤と路床の境付近が硬いため、バックホウで掘削していたところ、バックホウの刃先がガス供給管に接触し、損傷した。	12-2.公衆災害(物損)			
9	H31.2.11	2.政令市	2.管きょ推進	作業機械誘導	現場内	立坑部における作業のため、道路両側に交通止めの誘導員を配置(2名)していた。立坑部の埋め戻しのため、立坑回りの3面について鉄管による柵を設置した後、クレーン機能を有するバックホウにて覆工板2枚(3mもの)を開ける作業を実施した。柵を設置していない1面については、埋め戻しのためのトラックが進入することから、ロープで立ち入り防止策を図るため、ロープを取りにいつている最中に、交通誘導員が立坑内に転落した。	1.墜落・転落	68	男	急性硬膜外血腫・右側頭部骨折
10	H31.2.18	4.町村	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	交通誘導員が罹災者を歩行者用道路に誘導したのだが、足を踏み外し、取付管敷設のための掘り山に転落した。	1.墜落・転落	55	男	左足骨折(全治3ヶ月)
11	H31.2.18	2.政令市	6.処ボ機械電気	汚泥乾燥設備撤去作業	現場内	地下から吊上げた汚泥配管を地上にて横倒作業を行っていたところ、吊荷が回転した為、介錯作業員(被災者)が回避行動をとり、その際、解体資材に頭を転倒、左足を裂傷した。	5.転倒	31	男	左足脛の裂傷
12	H31.2.19	3.一般市	6.処ボ機械電気	作業車両誘導	現場内	ゲート搬入作業中に車両作業員が転倒し、搬入車両(トレーラー)に接触して、負傷した。	5.転倒	54	男	肋骨・脊椎棘突起骨折
13	H31.2.19	2.政令市	1.管きょ開削	掘削作業	現場内	掘削作業の際に、東京ガスの立会いにより手掘り先行でガス管を露出させたが(土盛り約90cm)、バックホウで掘削する際に、手掘りしていない側面部分に立ち上がっていた供給管を損傷させた。	12-2.公衆災害(物損)			
14	H31.2.22	4.町村	2.管きょ推進	管布設作業	現場内	立坑内にマンホールを設置後、ヒューム管(φ250 L=0.5m)を布設する際、クレーンから吊り下げていたフック付きの玉掛けワイヤーにヒューム管を吊っていた玉掛けワイヤーが外れヒューム管が約3.0mの高さから落下し中間付近(約1.5m)にあったマンホール内のステップに接触し、マンホール内で作業していた罹災者の背中に当たった。	3.飛来・落下	51	男	背中打撲
15	H31.2.25	3.一般市	4.管きょその他	更生材撤去作業	現場内	管更生工において、更生後の残材を短冊状に切断し、クランプ固定の上、クレーンにてマンホールから引き抜く作業中、残材がマンホール内のステップに引っ掛かり、罹災者が引っ掛かりを外そうと試みていたところ、クランプが外れ残材が落下し、左足の甲にあたり負傷した。	3.飛来・落下	61	男	左リスフラン関節損傷及び左第1、2、3趾中足骨骨折
16	H31.2.28	3.一般市	5.処ボ土木建築	仮設材撤去工	差点(現場外)	仮設材の後片付けのため、単管パイプ(2m)を作業員2名で梯子により地上1階へ搬出をしていた。地下坑内にいた作業員が梯子途中(地下坑内から2.5m程度)にいた罹災者に単管を手渡した際、罹災者の手が梯子から離れ、地下坑内にいた作業員に接触しながら土砂面に転落した。	1.墜落・転落	47	男	左肩・上腕部剥離骨折
17	H31.2.28	2.政令市	7.処ボその他	足場解体作業	現場内	荒川幹線人孔内において、コンクリート圧送管を固定している足場の解体作業を行っていたところ、揚重していた単管の一部が落下し、その影響で足場に載っていた作業員が高さ10mから墜落した。	1.墜落・転落	22	男	死亡

平成 30 年度
下水道に関する水質事故等発生状況について
(平成 31 年 2 月末現在)

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

水質事故等発生状況

(平成31年2月末現在)

[総括]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水質事故等	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	3 (1)	8 (11)	4 (5)	4 (6)	3 (7)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	51 (53)
	累計	4 (1)	10 (4)	12 (10)	21 (16)	24 (17)	32 (28)	36 (33)	40 (39)	43 (46)	48 (49)	51 (53)	51 (53)	- -

[内訳]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	1 (1)	1 (1)	0 (2)	4 (2)	0 (1)	0 (3)	2 (1)	3 (1)	0 (1)	3 (1)	1 (1)	0 (0)	15 (15)
	2. 政令市	0 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (5)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (12)
	3. 一般市	3 (0)	3 (1)	0 (3)	4 (3)	1 (0)	7 (3)	2 (3)	1 (5)	2 (4)	2 (1)	1 (2)	0 (0)	26 (25)
	4. 町村	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	3 (1)	8 (11)	4 (5)	4 (6)	3 (7)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	51 (53)
発生施設	1. 管渠	1 (1)	4 (2)	1 (3)	3 (1)	0 (0)	2 (2)	2 (1)	1 (3)	2 (4)	2 (1)	1 (2)	0 (0)	19 (20)
	2. マンホール	1 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (2)	2 (0)	1 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (10)
	3. 処理場	2 (0)	1 (0)	1 (3)	4 (3)	0 (1)	3 (5)	2 (1)	2 (0)	0 (2)	2 (0)	2 (1)	0 (0)	19 (16)
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)
	5. その他	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (2)	0 (1)	1 (2)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (6)
	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	3 (1)	8 (11)	4 (5)	4 (6)	3 (7)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	51 (53)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	0 (1)	3 (3)	2 (3)	4 (3)	0 (0)	1 (6)	1 (3)	2 (4)	0 (2)	1 (2)	2 (2)	0 (0)	16 (29)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	2 (0)	2 (0)	0 (2)	1 (1)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	9 (8)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	2 (0)	1 (0)	0 (1)	4 (2)	2 (1)	7 (4)	2 (2)	1 (2)	3 (3)	3 (0)	1 (1)	0 (0)	26 (16)
	合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	3 (1)	8 (11)	4 (5)	4 (6)	3 (7)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	51 (53)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	7 (3)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	5 (5)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	2 (1)	4 (2)	2 (2)	4 (1)	0 (0)	3 (3)	1 (2)	2 (4)	2 (3)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	24 (21)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (5)
	合計	2 (1)	6 (2)	2 (4)	7 (3)	1 (1)	7 (6)	4 (4)	4 (6)	2 (6)	4 (3)	3 (2)	0 (0)	42 (38)
水質事故等 合計	4 (1)	6 (3)	2 (6)	9 (6)	3 (1)	8 (11)	4 (5)	4 (6)	3 (7)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	51 (53)	
状況分類	① 耐用年数経過	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (2)
	② 耐用年数以内	2 (1)	2 (1)	0 (2)	2 (3)	1 (0)	1 (1)	0 (2)	1 (3)	2 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (17)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	2 (1)	2 (1)	1 (3)	3 (3)	2 (0)	2 (1)	0 (2)	1 (3)	2 (4)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	17 (19)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※()内書きは、前年度(平成29年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

平成30年度

平成31年2月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			状況分類		事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型	供用年数 ／ 標準耐用年数	損傷・故障 の発生状況	事故概要	事故への対応
2月								
1	H31.2.6	2. 政令市	処理場	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出			下水処理施設で流量計の誤作動に連動して消毒剤である次亜塩素酸ソーダが過剰に注入された。放流先の河川で小魚が20～30匹程度へい死しているのを確認。 ・次亜塩素酸ソーダの注入ポンプを停止し正常な状態へ復旧。 ・環境部局等へ連絡 ・再発防止については検討中
2	H31.2.8	3. 一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	13/50	耐用年数以内	地元住民からの通報を受け確認したところ、河川横断管渠(圧送管:塩ビ管φ150の継ぎ手部)から漏水していた。 ・バキューム車の現地配備後、マンホールポンプを止め、順次バキューム車にて汚水を処理場まで運搬し、応急対応。 ・下水道圧送管(鋼管立ち上がり部)の腐食による漏水。(空気弁付近以外はポリエチレン管) ・応急復旧作業は完了。本復旧の時期は未定。 ・他の橋梁添架の圧送管について点検実施。
3	H31.2.22	1. 都道府県	処理場	水質事故	③悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合			・栄養塩類増加に係る試験運転を実施中であり、放流水毎時データを確認しながら、あらかじめ定めていた凝集剤注入設定に基づき、運転をおこなっていた。2/22未明より放流水リン濃度が急激に上昇し、未明2時以降、設定に基づき可能最大量の添加を実施したが、放流水リン濃度が6～7時頃まで上昇したのち低下したものの、日間平均値が事業計画値(1.0mg/L)を超過した。 ・凝集剤(PAC)添加量を増量し、放流リン濃度を下げた。 ・再発防止として、毎時の放流水データを確認し、凝集剤添加量の設定を変更。凝集剤添加率を増加させるタイミングを早めることとした。